

Golf Course Management & Maintenance Magazine

令和3年6月1日発行
(毎月1回1日)
第54巻第6号

ゴルフ場セミナー

6月号

キャディ付きプレーの魅力を探る

ビギナー応援大作戦

今からでも役立つ夏越し対策



高齢化と様々なニーズへの対応

ディの力
付き魅
キャ

「キャディのよさを実感でき
るイベントの開催を！」

佐野俊輔

株リンクス(神奈川県) GM

12年前から、神奈川県や千葉県など首都圏近郊のゴルフ場にキャディを派遣している株リンクス。ここに来て、キャディの派遣や請負を扱う業者の数は急増しているという。キャディ付きをチョイスするゴルファ―のニーズにどのように対応しているのだろうか。

* * *

6月に入ってからだった。その頃は2人プレーや3人プレーがほとんどで、今年に入って4バググ主体へと戻り、だいぶ回復してきた印象だ。

コロナ以降はゴルフ場も様変わりした。たとえば、全組キャディ付きで最終スタートを10時30分としていたメンバーシップコースが、午後スルーセルフの予約を、7時前にも午
前スルーの予約を入れるようになった。ラウンドできればよい、ハウス

当社も昨年の4〜5月は休業状態で、派遣の依頼が復活し始めたのは

ーの楽しさが分かっている人材を集め、テクニクや接遇のノウハウを教えて一流のキャディに育て上げるのも我々の役目。すでに、プロを目指す若者や下部ツアーを主戦場としているプロたちに、競技の合間やオフシーズンにキャディとして働き、転戦費用の足しにしてもらう。そんなサポート計画も進行中だ。

最後に提案したいのだが、キャディ付きプレーのよさを広く知っても

らうため、ゴルフ場でイベントを増やしてもらえないだろうか。ある時間帯はキャディ付きの枠として、オープンコンペや市民カップのような大会を開いたり、1000切りを目指す人だけが出られる競技を催したり……。こういった企画を少しずつ増やしていけば、若い年代のゴルファーもキャディ付きプレーを体験し、よさを知るきっかけが生まれれると思うのだが、いかがだろうか。